

抄紙会社跡地の移り変わり



抄紙会社 (明治8年開業)

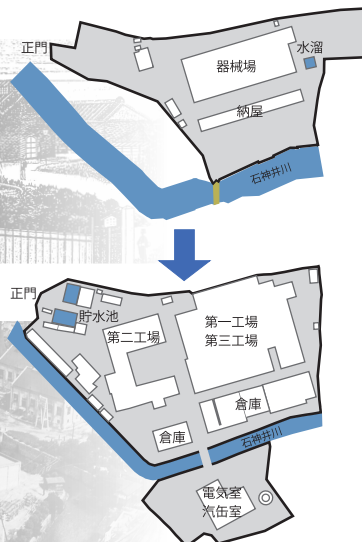
「東京盛園図録」(明治18年) 国立国会図書館デジタルコレクションより



王子製紙(株)王子工場 (昭和20年閉鎖)

昭和24年(1950)三社分割前の王子製紙(株)

昭和10年頃



現在の王子駅周辺



「洋紙発祥之地」記念碑

渋沢栄一の発議によって抄紙会社が創立されて以来、日本の洋紙業界に大きな影響を与えてきた王子製紙(株)の創立80周年を記念して、昭和28年(1953)王子工場の跡地に建立された。

紙の博物館

昭和25年(1950)、空襲で焼け残った王子製紙(株)王子工場の電気室を利用して創立した紙専門の博物館。和紙洋紙の両面から、紙の産業や歴史、文化を展示している。平成10年(1998)に飛鳥山公園内に移転した。



※この変遷図は、以下の地図・図面類を参考に、主要な建築物のみを表記したイメージ図である。「内務省引継地図 0026 東京府下第九大区六小区武州豊嶋郡王子村四拾七番地抄紙会社(内題)」「(東京大学史料編纂所蔵)を改変し、「王子製紙(株)王子工場平面図」昭和9年(1934)(当館蔵)を参考に作成した。現在の地図は、国土地理院地図ウェブサイトの地図を加工して作成した。

20220910000



紙の博物館で
洋紙発祥の地を知る

抄紙会社

設立

150年

しょう し がい しゃ

抄紙会社誕生と王子ミニガイド

西洋式の技術を使って紙をつくる会社、「抄紙会社」(のちの王子製紙(株)王子工場)が明治6年(1873)に設立されてから150年が経ちます。

王子で開業した抄紙会社の工場は、王子の近代工業地化のさきがけとなり、日本の近代製紙業の原点となりました。

関連展示

抄紙会社開業

2022年9/17(土)～12/18(日)

抄紙会社150年

—洋紙発祥の地・王子(仮)—

2023年9/16(土)～12/17(日)

戦前の王子製紙株式会社王子工場
(昭和10年頃)

公益財団法人 紙の博物館

〒114-0002 東京都北区王子1-1-3 (飛鳥山公園内)
TEL (03) 3916-2320 FAX (03) 5907-7511
<https://papermuseum.jp/>

しょう し がい しゃ

抄紙会社のあゆみを知る

(のちの王子製紙(株)王子工場)

渋沢栄一、実業家として最初の機械工業

抄紙会社は、「近代日本経済の父」といわれる実業家 渋沢栄一が、明治の豪商であった三井・小野・島田組に、共同事業を呼びかけて設立した会社です。

この会社は、官僚を辞して民間の実業家となった後に、渋沢が初めて手がけた機械工業でした。

渋沢は、明治維新後の日本には、人々が知識を得られる新聞や書籍の普及が重要だと考え、日本に近代製紙業を興す必要性を説いたのです。

工場は、東京・王子に開業

王子は、明治時代の製紙業にとって最適な条件が揃っていました。

【工場敷地の条件】

- ・製紙のための水（千川用水）
- ・交通・運搬のための川（石神井川）
- ・原料のボロが入手しやすい都市部近郊

王子村が工場誘致に積極的だったことも、敷地決定の後押しをしました。

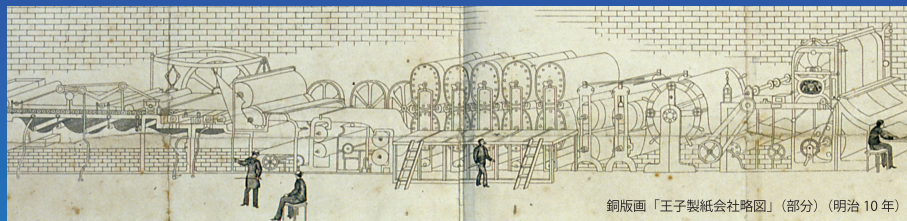
最新式工場、東京の名所に

海外の最新の設備や技術を取り入れて開業した抄紙会社は、新時代の到来を象徴する文明開化の名所としても人気を博し、錦絵にも描かれました。



↑ 渋沢栄一（明治5～6年頃） 渋沢史料館所蔵

抄紙会社開業式（明治8年12月16日）→



銅版画「王子製紙会社略図」（部分）（明治10年）



錦絵「古今東京名所 飛鳥山公園地王子製紙会社」（明治16年）



戦前の王子製紙(株)王子工場（昭和10年頃）

王子製紙(株)王子工場、その後

抄紙会社はその後、2回社名を変更し、王子製紙(株)王子工場となりました。明治以来、工場を拡張し、印刷用紙、筆記用紙などを生産し続けましたが、昭和20年、空襲で大きな被害を受けて廃止されました。

工場跡地は、戦後、十條製紙(株)の社宅として活用され、現在は総合レジャー施設となっています。

※2022年現在、抄紙会社は、王子ホールディングス(株)、日本製紙(株)として存続している。

博物館に残るゆかりの品々

焼け残った王子工場の一部を使って開館したのが、紙の博物館（当初の名称は製紙記念館）です。抄紙会社創業期の貴重な資料を収蔵しています。

略年表

- | | |
|-------------|--|
| 明治6年（1873） | 抄紙会社、設立
渋沢栄一、設立と経営を主導 |
| 明治8年（1875） | 開業式（王子で工場が操業開始） |
| 明治9年（1876） | 明治天皇行幸
抄紙会社、社名を製紙会社へ変更 |
| 明治23年（1890） | 製紙会社王子工場内に、第二工場が操業 |
| 明治26年（1893） | 製紙会社、社名を王子製紙(株)へ変更
王子製紙(株)王子工場となる
渋沢栄一、取締役会長に就任（～明治31年） |
| 昭和8年（1933） | 王子製紙(株)が、富士製紙(株)、樺太工業(株)を合併
（紙生産量の84%を占める一大製紙会社の誕生） |
| 大正元年（1912） | 王子製紙(株)王子工場内に、第三工場が操業 |
| 昭和20年（1945） | 王子製紙(株)王子工場、空襲により被害
翌年、王子工場の復旧を断念 |
| 昭和24年（1949） | 王子製紙(株)が過度経済力集中排除法により
苫小牧製紙(株)、十條製紙(株)、本州製紙(株)の
3社に分割
王子工場跡地は、十條製紙(株)の社宅用地となる |
| 昭和25年（1950） | 王子工場跡地に、製紙記念館（現 紙の博物館）
開館 |
| 昭和28年（1953） | 同跡地に、「洋紙発祥之地」記念碑 建立 |